



## “海外駐在生活レポート in インドネシア”

第一港運株式会社  
インドネシア現地法人  
PT. DAI ICHI KOUN INDONESIA  
宮本 武蔵

第一港運株式会社（本社：東京都江東区）の海外子会社「PT. DAI ICHI KOUN INDONESIA」に2019年8月から駐在しております「宮本武蔵」と申します。

初めに当社についてお話させていただきます。PT. DAI ICHI KOUN INDONESIAは、2013年7月にインドネシア・東ジャワ州都スラバヤの地に設立し、鉄鋼製梱包枠及び梱包材の製造を生業としており、日本で長年培ってきた高品質な製品及びサービスを、この地域に進出された取引企業様へ提供させていただいております。

後の2016年7月には、現地企業と

の合併会社でPT. SEGORO DAI ICHI WAREHOUSEを設立、倉庫業を営むことで、合併先が営む総合物流業と連携して、インドネシア国内輸送はもとより、輸出入フォワーディング

業にも展開することで、成長著しいASEAN地域をはじめワールドワイドに一貫輸送サービスを提供しております。更に2019年9月にはPLB（保税物流センター倉庫）の認可を取得し、保税で非居住者在庫を扱えることをセールスポイントに、様々



なニーズに効率的に対応できる物流オペレーションを提案することにより、お客様に満足していただけるサービスを提供させていただいております。

さて、私のスラバヤ駐在生活も今年の8月で丸2年を迎えようとしています。当地での仕事にも馴染み、生活面でも少しは余裕を持てるようになり、充実した日々を過ごしております。本日は、日頃感じている事や生活の様子を交えながら、インドネシア・スラバヤの現在を簡単にご紹介させていただきます。

### 1) インドネシア・スラバヤ

スラバヤ（インドネシア語：Kota Surabaya）は、インドネシア第2の都市で東ジャワ州の州都であり、人口は約300万人ながら、首都ジャカルタに比べ10分の一の規模です。



同僚と共に（筆者：後列中央）

当地は、オランダ植民地時代に商業港として発展し、1942年、第二次世界大戦（太平洋戦争）において日本軍（海軍）に占領されました。1944年に日本軍は連合国軍の爆撃を受け、1945年には降伏することになります。同年10月に上陸したイギリス軍とインドネシア独立派の間で戦闘が発生し、これがインドネシア独立戦争の発端となりました。その後、インドネシア独立派が占拠しましたが、1947年にオランダ軍に再び占領され、1949年ようやくインドネシア共和国に編入されました。

また、スラバヤは、独立運動にて大きな足跡を残した政治家でインドネシア初代大統領となるスカルノ氏の故郷でもあり、その都市名はインドネシア語で「サメ」を意味するスラと、「ワニ」を意味するバヤが、この土地で争ったという神話に由来し市章となっています。

### 2) インドネシア人の性格・特徴

インドネシアの方々に対する第一印象は、「何事も焦らず、マイペースで明るい国民性」であると感じました。街中での交通渋滞は日常茶飯事に発生しますが、ドライバーは決して焦ることはありませんし、ショッピングモールにある人気飲食店においても、長い行列に並ぶことを厭わず、おしゃべりをしながら長時間待つことは当たり前で、マイペースな日々を過ごす方々が多数見受けられとても穏やかに感じます。

スラバヤに長年住まわれている日本人に、インドネシアの方は何故穏やかでマイペースな性格なのかを尋ねたところ、インドネシアは赤道に近く、乾季雨季はあるものの常夏で、季節感がなく時が過ぎ去っていく気候により、何事も焦らずマイペースで明るい国民性になったのではと仰っておられました。



スラバヤの象徴である鯨（スラ）とワニ（バヤ）の像

また、皆様ご存じのようにインドネシアは、親日家の方々が多いお国柄であり、私が暮らしているアパートでも、日本人とわかると「おはようございます」「ありがとうございます」とニコニコしながら日本語で話しかけてきます。多くの方が日本語を学んでおり、我々と日本語でコミュニケーションをとることを非常に楽しんでいます。

街中を走るクルマやオートバイは日本メーカーのブランドが多く、日本

のテレビ番組や、アニメも多数放送されており、大変人気があります。日本のお菓子（チョコレート菓子）は特に人気があり、日本への一時帰国の際は、お土産として溢れるばかりのお菓子をスーツケースに詰め込み、持ち帰ることが今ではお約束事になっていますが、スタッフの喜ぶ顔を思い浮かべるとつついすスーツケースに入れすぎてしまうことがあるのも事実です。

### 3) スラバヤでの生活

2012年の夏にスラバヤを視察目的で訪れたのが初めてですが、当時のスラバヤは、綺麗に舗装工事されている道路は稀で、継ぎ接ぎだらけに舗装されたところが多く（なかには、道路中央に大きな穴が開いていることも）、ガタガタな道で歩道は無く歩行での外出は困難な状態でした。

しかし、2019年8月に赴任した際は、以前とは比べようにならないほど綺麗に道路が整備されており、私の住む地域では、広い歩道も設けられ、今では近隣を散歩することも可能となっています。昨今は、コロナ禍で歩道を歩く方は少ない状況ではありますが、以前は、犬の散歩をされている方や、ランニングをされている方を多数見かけました。この数年間で見えるほど環境が変化しており、経済発展のスピードが速いことに対し正直驚かされております。

スラバヤ市内中心部から少し離れると、スーパーや飲食店で英語での意思疎通が難しくなります。タクシー運転手も然りで、目的地を適切に



## 海外だより

伝えることは道中において正しく向かっているのだろうかという不安を少しでも払拭するための基本であり、事前に目的地の住所や名称をインドネシア語表記したメモを作成し、ある程度行先周辺の地図を把握しておくことを学びました。

インドネシア国内の物価は、経済発展のスピードと比例し右肩上がりとなっています。(この物価上昇に合わせて従業員給与も右肩上がりに上がりある意味で大変です。)

日本の物価と比べ1/3程度で生鮮食料品などは、安く購入出来ますが、当然のことながら、遠く約5,000キロ離れた日本の味を思い出し、手に取る煎餅は、日本の4倍程の価格で高級品となり我慢する場面も少なからずあります。

もう少しご紹介すると、水道水は飲用する事はできないためミネラルウォーターを購入する必要がありますが、その価格は、500mlで4,000ルピア(約35円)、1.5Lで7,000ルピア(約60円)、食事代としては、インドネシア料理で現地の方が利用する屋台(ワルン)で15,000ル

ピア(約120円)、ショッピングモール内のレストランで50,000～200,000ルピア(約400円～約1,600円)であり、日本食となると市内数店あるレストランで100,000～200,000ルピア(約800円～1,600円)となります。

日本でも馴染み深い「丸亀製麺」がスラバヤ市内ショッピングモール内に出店しており、平均で70,000ルピア(約560円)日本の価格に比べると若干高めな料金設定となっておりますが、近年では現地の方の所得上昇も著しく、多くの方々に人気があるようで、当社スタッフ曰く、「うどん」も好きだが、特に「天ぷら」がお気に入りです。「揚げ物」好きなインドネシア人の心を掴んでいるようです。

日本食レストランで、インドネシアで有名なビンタンビールが320mlで25,000ルピア(約200円)、ヨーロッパブランドのハイネケンビールが



スラバヤのフードコート

に気楽に呑むことが出来ず苦労しています。もっともイスラム教徒が多くアルコールご法度の国ですから仕方ありません。

#### 4) コロナウイルスの影響

3月末時点、インドネシア全体の感染者数は、150万人を超えている状況となっており、ワクチン接種が開始されていますが、日本同様にワクチンの到着が遅延し、当初のスケジュール通りに接種が進んでいないとの報道がされています。

昨年よりインドネシアへの入国規制が実施されており、訪問目的に関わらず海外からの渡航者の足止めが現在も継続されています。

近隣の日系企業様の話を聞くと、日本からの技術者、担当者が入国が許されず、進行中プロジェクトが頓挫しており皆様苦労されている様子でした。

世界的に状況の改善は遅々として進んでいませんが、一刻も早い終息と再び以前のような生活環境に戻ることを祈るばかりです。



インドネシアで2番目に大きなアル・アクバル・モスク

320mlで30,000ルピア(約241円)とビールの価格は日本とそれほど変わらないですが、ウイスキー、日本酒、焼酎などは、奢侈品となり日本の3～5倍の価格となっており、日本のよう